

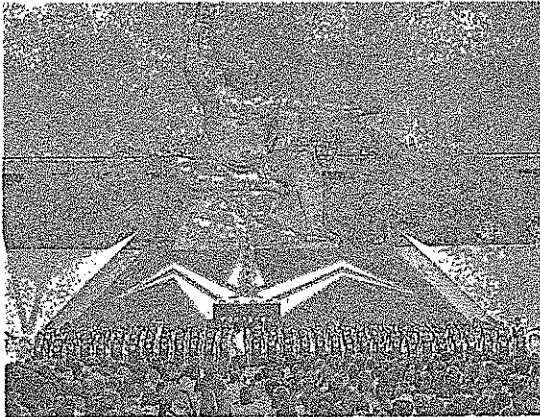
戦争法案 長崎から批判

平和への誓い

長崎は9日、被爆70年の原爆の日を迎えました。市主催の平和式典が平和公園で開かれ、被爆者や遺族、市民など6700人（同市発表）が参加し、原爆投下時刻の午前11時2分に黙とうしました。田上富久市長は「長崎平和宣言」で、戦争法案について「慎重で真摯な審議を行う」よう求めました。被爆者代表の谷口稔蔵さん（日本原水爆被害者団体協議会代表委員）も「平和への誓い」で、戦争法案を「被爆者をはじめ平和を願う多くの人々が積み上げてきた核兵器廃絶の運動、思いを根柢から覆そうとするもので、許すことはできません」と批判しました。原水爆禁止2015年世界大会・被爆70年ナガサキデー集会在同市で開かれ、国内外の6000人が核兵器廃絶の決意を新たにしました。

平和式典開く

長崎市の平和式典で田上富久市長は「長崎平和宣言」を語り、「長崎や広島を被爆地だけでなく、東京をはじめ多くの街を破壊した空襲、沖繩戦、そしてアジアの多くの人々を苦しめた」と述べました。



平和祈念像の前で合唱する平和記念式典参加者たち=9日、長崎市の平和公園

谷口稔蔵さんは「平和への誓い」で、「戦後日本は再び戦争はしない、武器は持たない」と世界に公約した『憲法』が制定されました。しかし、今集団的自衛権の行使容認を押しつけ、憲法改正を推し進め、戦時中の時代に逆戻りしようとしています」とのべ、安倍内閣の「戦争する国」づくりを批判し、戦争法案の撤回を求めました。



被爆70年ナガサキデー集会のフィナーレに全員で合唱して、核兵器廃絶への決意を固める参加者=9日、長崎市

長崎の五つの被爆者団体の代表は9日、長崎市内で行われた安倍晋三首相との面談の席上、「われわれは安保法制について何回も撤回を求めてきた」と発言し、戦争法案の撤回を厳しく迫りました。

長崎県被爆者手帳友の会の井原東洋一会長は「安保法制は憲法違反だ。法的安定性を無視した首相補佐官の発言は許せない」と厳しく口調で批判しました。

井原さんは住民と自治体の意向を無視して川内原発（鹿児島県の再稼働強行を強引にすすめる国）に対して「私たちは不信感を募らせています。放射線の汚染水の垂れ流しの現状を知っています。福島県の被爆者と連携し、原発再稼働には絶対に反対です」と訴えました。

長崎原爆被災者協議会（長崎被災協）の谷口稔蔵会長をはじめとする被爆者団体が共同して提出した要望書では「安保政策や憲法九条、テロの増大や戦禍への懸念等々も含めて、日本は、それで国内外の安全と平和に貢献できているのか疑問がわくばかりです」と表明。「私たちが被爆者は高齢化し、残された生存の時間はあとわずか。どうか核兵器廃絶等、被爆者の願いを受け止めてください」と訴えています。

首相は被爆者の痛烈な訴えにまともな答えようとしていません。

「私たち一人ひとりの力がこそが、戦争と核兵器のない世界を実現する最大の力だ。市民社会の力は、政府を動かす。世界を動かす力だ」と強調。各国政府に対し、「核兵器禁止条約など法的枠組みを議論すること」と、広島・長崎を訪問して被爆の実相を知ることが求めました。

世界大会 核兵器のない世界へ

原水爆禁止2015年世界大会・被爆70年ナガサキデー集會「核兵器のない世界へ」の取り組みが紹介された。母親が「お母さんは何したの」と聞かれたとき、みんなと力を合わせて平和を守ってほしいと訴えたいと訴えましと合唱で迎えられて被爆者

被爆者、首相に迫る

対反対ですと訴えました。長崎原爆被災者協議会（長崎被災協）の谷口稔蔵会長をはじめとする被爆者団体が共同して提出した要望書では「安保政策や憲法九条、テロの増大や戦禍への懸念等々も含めて、日本は、それで国内外の安全と平和に貢献できているのか疑問がわくばかりです」と表明。「私たちが被爆者は高齢化し、残された生存の時間はあとわずか。どうか核兵器廃絶等、被爆者の願いを受け止めてください」と訴えています。

限り、戦争と原爆被害の生き証人の一人として、その実相を世界中に語り続ける」と述べました。

安倍晋三首相があいさつし、広島市の平和記念式典で「あいつにはなかった」と述べた。被爆者3373人の名前を記した名簿が納められ、死没者総数は16万8767人となりました。

副委員長 赤嶺政賢、本村伸子、真島省三、大平喜信の各衆院議員、仁比聡平参院議員が参加しました。

世界大会 核兵器のない世界へ

原水爆禁止2015年世界大会・被爆70年ナガサキデー集會「核兵器のない世界へ」の取り組みが紹介された。母親が「お母さんは何したの」と聞かれたとき、みんなと力を合わせて平和を守ってほしいと訴えたいと訴えましと合唱で迎えられて被爆者

世界大会 核兵器のない世界へ

原水爆禁止2015年世界大会・被爆70年ナガサキデー集會「核兵器のない世界へ」の取り組みが紹介された。母親が「お母さんは何したの」と聞かれたとき、みんなと力を合わせて平和を守ってほしいと訴えたいと訴えましと合唱で迎えられて被爆者